

総務常任委員会 行政視察報告



▲神戸市行政視察の様子

総務常任委員会の行政視察を11月6日から8日にかけてデマンドバスについて兵庫県神戸市と猪名川町に伺い研修してきました。東松島市における課題として、デマンドバス（らくらく号）の利便性及びコストの問題がある。市民からは安い料金で呼んだらすぐに車輛が来てほしいという要望があるが、実際問題、市内のタクシー会社に委託をしているため、民業圧

迫をしてはならないというジレンマを抱えている。そこで、大きな震災に見舞われた後に地域の足として運行をしている神戸市に伺い、神戸市の中でも、やや東松島市に似ている状況の地域である垂水地区のコミュニティ交通について視察調査を行った。地域コミュニティ交通の導入のきっかけは、商業施設や病院までの交通手段が無い、高齢化により自動車の運転が困難というように、東松島市に限らず、全国一律に問題は同じであった。ただし神戸市は利用促進のために大型商業施設に協力してもらい、利用促進券を大型商業施設に購入してもらい、その施設で3,000円以上購入した客に1000円の利用促進券を配布している。また、猪名川町の取組は、29人乗りのバス2台で運行し、車イスの人のための

のバリアフリー使用であり、これからのさらなる超高齢化社会に対応している。これらの取組を東松島市も参考にすべきであると思われる。



▲猪名川町行政視察の様子

総務常任委員会

委員長 熊谷 昌崇
副委員長 五ノ井惣一郎
委員 石森 晃寿
委員 土井 光正
委員 小野 幸男

民生教育常任委員会 行政視察報告

本年度取り組むべき所管事務調査として、5月以降福祉関連計画・教育関連計画を内部調査した。その結果子育て支援の総合的提供と環境づくりが市政の課題となっており、ことから次の自治体事例について調査した。

①子育て支援事業および子育て世帯外出支援補助金

地域のニーズの疎密はあるが待機児童はない。人口増に伴い多目的視察が必要である。福祉事業との連携が必要になっている。

②孫育てガイドブック

県の事業で作成したものであり、親世代、孫、子との関係性を良好にする上で貴重なガイドブックである。

▲愛知県瀬戸市▼

①せとっこモアスクールおよび放課後児童クラブ
各学校の空き教室を利用



▲土岐市議会（議場にて撮影）

用して安全な遊び場の確保及び生活の場を主眼とし、学童の見守り、保育の延長の両面を持つ。視点とした「学力向上策」にはつながっていないかった。施設は狭隘（せうがい）であったが子供たちは楽しく過ごしており、NPO法人・ボランティア活動が協力しての運営が身を結んでいた。

②保育園の民営化
公営施設を一定に保ちながら、小学校ゼロ年生教育や各年の保育手法を充実しており、小学校区に一つずつ整備している。



▲行政視察とあわせて瀬戸市長を表敬訪問し、震災復興支援に対して御礼

民生教育常任委員会

委員長 上田 勉
副委員長 小野 恵章
委員 手代木せつ子
委員 佐藤 富夫
委員 長谷川 博